

アルコールインターロックに対応

昨年12月の改正道路交通法施行により、事業所におけるアルコール検知器を用いた点呼が義務化された。今年に入り、点呼不備や飲酒運転の発覚により大手企業が事業許可を失ったケースも出るなど、

車両管理の重要性は一層高まっている。一方で企業や自治体ではE

V導入や車両台数の最適化も進み、点呼や鍵の受け渡し、日報管理といった業務は複雑化。管理者の負担は増加の一

社用車管理を驚くほど楽に

トータル車両管理システム Mobility+



Mobility+の6つの機能

日報自動作成 Web 車両予約

GPS 位置情報 運転状況分析

デジタルキー

アルコールインターロック



点呼・日報・鍵管理… 車両運用の課題を解決

途をたどっている。

こうした課題に対応する車両管理ソリューションが、セイコーソリューションズ（千葉市）の「Mobility+」だ。クラウド基盤で点呼や日報、鍵管理、車両予約、EV充電情報まで一元化。最大の特徴はアルコール検知とエンジン始動を連動させたアルコールインターロック機能で、チェック未実施や飲酒が検知された場合はエンジンが始動できず、点呼の実効性を担保する。

既存車両への後付けも可能で、設計から取り付け、運用サポートまで一貫して提供する。製薬会社では「社名車での事故リスクを低減し、企業ブランドの信頼維持につながる」、自治体では「デジタルキーにより稼働率が向上し、台数削減にもつながる」といった声も寄せられている。さらに、飲酒に対して特に厳格な管理が求められる業界でも、コンプライアンス強化の観点から導入が検討されている。

Mobility+は、管理者の目が届きにくい車両運用現場を「仕組み」で支える新しいスタンダードとして注目を集めている。